

生物

生物
化学

化学

物理

大学教員

どんな経験もきっと役立つ 一歩一歩

岡田 住子 (京都市大学工学部原子力安全工学科 准教授)

仕事の内容とやりがい

京都市大学(旧武蔵工業大学)の原子力安全工学科で放射線を用いた分析法の開発とその応用を研究しています。物理系と思われがちな原子力分野は科学技術の広範囲な分野が結集したものです。そこに、仕事のやりがいがあります。高校生のときは、物理、生物、化学と分かれてその道の行き先もあたかも別々の世界のように思えますが、実は結ばれた世界であること、そこがとても魅力的です。私の研究である分析法の開発は物理や化学の知識を必要とします。その応用となる対象分析物は生物学、地質学、医学、工学、材料学など多分野にまたがります。

仕事と生活のバランス

私は40歳で結婚して、42歳10ヶ月で子供を生みました。高齢ということ、もともと子供好きであることなどで、家庭に軸足を置いています。現在、娘は12歳です。小学校3年生までは子供のいないころの三分の一の仕事時間でした。しかし、大きな成果もあります。大学の教員として、子育てをすることで、初等中等教育の場がどんな状況なのかということを知り、自分の講義を見直すことができました。研究についても、じっくり考える時間を持つことができました。仕事と家庭を両立するために必要なことは、どんな状態でも「楽しむこと」です。そこから、いろいろなヒントがあります。やっぱり、どんなことでも努力した時間は無駄にならないということです。

私の進路決定のきっかけ

子供のころの夢は、医者になることでした。どうして医者になりたかったかというと、「人を助けることができる」それだけでした。しかし、残念ながら学力が足りませんでした。挫折しながらも、「人の助けができる」ことを考え続けました。大学は日本大学の農獣医学部水産学科に入りました。大学の講義はとても楽しかったです。特に専門は見るもの聞くもの、珍しく、また、個性あふれる教授陣に魅了されました。「もっと知りたい」という気持ちが募って、紆余曲折しながら、今の職業につきました。面白いのは、生物が好きで、物理を知らない私が、生物から生物化学、化学、そして今は物理に非常に近い分野にいます。どんな経験もきっと役立つ、そう思います。

進路選択についてのメッセージ

やりたいことがあれば、それに向かって進む。迷っているときは、なんでもいいから選んで一歩進む。出来るだけ自分の意思で、一歩一歩進めるといいですね。これからの人生に、身につけてほしいことは、苦しいとき、辛いときの気持ちの解消法を自分なりに見つけることです。私の解消法は、数字を打ち込むような単純作業です。すっきりします。解消法を見つけて、リズムを整えて、もう一度自分を見てみると、解決することってありますよ。

＜岡田住子(おかだゆきこ)プロフィール＞

北海道札幌大谷高等学校 → 日本大学農獣医学部 水産学科 → 東京工業大学 総合理工学研究科 研究生 → 武蔵工業大学 原子力研究所 → (結婚) → (出産) → 同大学 エネルギー基礎工学科 → 同大学 環境エネルギー工学科 → 同大学 原子力安全工学科

